

全学共通教育における初年次セミナー（1回生セミナー）に対する学生の評価

Students' evaluation on freshmen seminars in general education curriculum

西垣 順子
大阪市立大学大学教育研究センター

NISHIGAKI, Junko
Osaka City University, Center for Research and Development of Higher Education

キーワード：初年次教育、教育成果、学習動機

Keywords: First-year experience, learning outcome, motivation for learning

1. 初年次セミナーと1回生セミナー

2009年現在、大阪市立大学では全学共通教育として「初年次セミナー」が9コマ開講されている。初年次セミナーは、「人類の幸福と発展に貢献するため、さまざまな分野において指導的役割を果たし、社会で活躍する人材を育成する」という大阪市立大学の教育理念に基づき、大阪市立大学で学ぶ学生が学士課程教育を通じて、「専門教育を通じて得た視点をもちつつ専門教育で学んだこと以外のことにも広く関心をもって挑戦でき、どのような分野のどのような課題に対しても、創造的に問題発見・解決に取り組むことのできる人（『初年次教育検討委員会答申（2007年度）』より）」に成長する基盤の形成を目的とする、少人数の演習科目である。

初年次セミナーの前身は2004年度に開講された「1回生セミナー」である。1回生セミナーは、「ゼミで他の人と議論する経験を持つことにより、大学で学ぶ意欲を高めるとともに、文献の調べ方、報告（プレゼンテーション）の仕方、ディスカッションの仕方、レポートの書き方（添削やコメントも行う）などの基本を（『入学直後の初年次教育の開設と試行（2003年5月28日、大学教育研究センター取りまとめ、6月25日教務委員会に提案）』より）」学生が身につけることを

目的としていた。1回生セミナーは2004年から2007年まで開講された。その後、2006 - 2007年度に設置された初年次教育検討委員会での審議を経て、全学共通教育における初年次教育科目と各学部で実施される導入教育科目の位置づけをより明確にするために、所属の異なる学生同士が学びあうことを目的の中心に据えた「初年次セミナー」が1回生セミナーに代わって設置された。また同時に、初年次セミナーの運営に当たるための初年次教育教科会議も新たに設置された。

1回生セミナーと初年次セミナーについては、大学教育研究センター及び初年次教育教科会議を中心に、その効果の検証が随時行われてきた。本稿ではこれまでに実施された調査を振り返り、全学共通教育における初年次教育科目の意義と効果をレビューするとともに、今後の課題について考察する。

2. 「全学共通教育での初年次教育報告書 1回生セミナーの実施結果を中心に」

2.1. 調査の目的と方法

2004年度に1回生セミナーが初試行された。この試行をうけ、1回生セミナーの教育効果について検討するために、1回生セミナーの実施状況と学生からの評価についての調査が実施された。

調査は主に2つのパートにわけることができる。1

つめは、実際に実施された1回生セミナーのシラバスの分析と学生の受講状況の分析である。2つめは、1回生セミナー受講生に対する授業アンケート調査である。内容は、授業の理解状況と有意義度、授業に関連して読んだ本の数であった（回答者数102名）。また商学部、経済学部、法学部の学生に対しては、1回生セミナーと各学部の導入科目について、「両方とも続ける方が良い」「1回生セミナーだけでよい」「専門導入科目だけで良い」「両方ともいらない」の4つから選択してもらった上で、その理由も尋ねた（回答者数25名）。

2.2. 調査結果の公表先

この調査は「全学共通教育での初年次教育報告書1回生セミナーの実施結果を中心に」として2004年11月にまとめられた。この調査は大学教育研究センターが調査母体として実施した。大阪市立大学内に配布され、現在は残部が大学教育研究センター内にある。

2.3. 調査結果の概略

2.3.1. 各1回生セミナーの内容と学生の受講状況

1回生セミナーは本稿の第1節で述べたような共通の目的のもとに設置されているが、実際の実施内容は担当教員によって異なる部分もある。本調査によると、ほとんどのセミナーがレポート作成法を主要な授業目標としている一方で、それ以外の授業目標（勉強の仕方の習得、問題意識の高揚など）をどこにおくかについては多様性が見られた。

学生の受講希望状況はセミナーによってばらつきがみられていた。受講希望者の数はセミナーごとの授業目標の違いではなく、同一時間帯の他の授業科目の受講状況の影響を強く受けていた。

2.3.2. 学生の授業アンケートの結果

1回生セミナーとそれ以外の総合科目（講義）と総合科目（演習）の3者で、学生による授業評価アンケートの結果比較を行ったところ、授業内容の理解度、有意義度の両方で、1回生セミナーと演習科目は講義科目よりも高い評価を得ていた。また授業のための読書量も、1回生セミナーでは多かった。自由記述の分

析とも合わせて、1回生セミナーの受講後の学生からの評価は上々であると判断された。

また、商学部、経済学部、法学部の学生に尋ねた専門導入科目と1回生セミナーの開講については、「両方続けた方がいい」を選択した受講生が回答者数の4分の3であり、残りの4分の1は1回生セミナーのみと専門導入科目のみに分かれた。両方続けたほうが良い理由としては、それぞれの科目の目標と性格の違いを挙げる者が多かったのに対して、片方のみで良いとの回答の理由は、1回生セミナーか専門導入科目であるかを問わず、「雰囲気が好きでなかった」「担当者が親切でなかった」といった受講した授業や授業担当者との相性の不一致に類する回答が主であった。

3. 「学部横断型演習『1回生セミナー』に関する事例報告」

3.1. 調査の目的と方法

本調査は、1回生セミナーの目的や効果についての学生の意識を知ることが目的として、2005年度と2006年度の1回生セミナーで7月末に受講生を対象に質問紙調査を行ったものである。回答者数は2005年度が144名、2006年度が79名であった。質問紙の内容は、「履修動機」「1回生セミナーへの期待」「学習成果」「1回生セミナーへの満足度」を中心としていた。調査用紙は章末資料1に掲載した。

3.2. 結果の公表

調査結果は「大阪市立大学 大学教育」第5巻第1号に報告として掲載された。当時の1回生セミナーは全学共通教育の「特別枠」として位置づけられていたために教科会議が存在せず、そのためこの調査の母体ははっきりしない。2004年度の試行において、大学教育研究センターが報告書のとりまとめにあたったという経緯があり、本調査報告の執筆は大学教育研究センター専任研究員である渡邊席子と西垣順子が行った。

3.3. 結果の概略と課題

受講生の1回生セミナーへの期待や履修動機は、「レポートや文章の書き方を身につける」「発表の仕方

を知る」といったスキル志向的とも言える期待が強く見られた。またセメスターを通じて受講した後の学習成果や満足度に対する評価も総じて高く、1回生セミナーはおおむね好意的に評価されていることが明らかになった。

ただ、この調査では「学部横断型で1回生セミナーを実施することによる教育成果」を測定できる調査票の構成になっていなかった。そのため、1回生が期待していたスキル習得の効果は確認できた反面、入学直後の履修科目選択の際には必ずしも明確に意識されていない学生の学習動機（問題意識の高揚など）に関して1回生セミナーがどこまで有効であったのかを明らかにすることはできなかった。この問題は、学部での導入教育に加えて学部横断での演習科目が必要とされる理論的根拠でもあり、今後の調査の課題として残された。

4. 2007年度1回生セミナー及び2008年度初年次セミナーにおける学生アンケート調査

4.1. 調査の目的と方法

本調査は、前節の最後で述べた1回生セミナー受講生アンケートの問題点を改善して、1回生セミナーの受講生が「学部横断型演習であることの意義」に関連して1回生セミナーをどのように評価しているかを確かめるために実施した。

2007年度は1回生セミナーが、2008年度は初年次セミナーが開講されていた。7月末に受講生にアンケート用紙を配布した。調査票（章末資料2参照）の構成は主に、「受講動機」「履修登録時のセミナーへの期待」「セミナーの目標に関する4月時点での自己評価」「セミナーの目標に関する7月末現在での自己評価」「今後の学生生活への抱負」「総合的満足度」から成っていた。とを比較することで、セミナーの効果を推測できるようにしたことが、2006年以前の調査からの変更のひとつである。またとで尋ねたセミナーの目標には「レポートの書き方」といったスキルのなもの他に、「いろいろなことに対する問題意識」のように、学部横断型の初年次学生向けセ

ミナーでより重視される目標も含めた。さらにの今後の学生生活への抱負については、専門領域での更なる学びへの動機づけに加えて、専門の枠を超えた幅広い学びに対する動機についても質問した。

回答者数は受講者のほぼ全員で、2007年が89名、2008年が83名であった。

調査の母体は、2007年度の調査は2005 - 2006年度と同様にはっきりしないが、2008年度は初年次教育教科会議が調査母体であった。調査報告の執筆は、2007年度初年次教育検討委員会副委員長で、2008年度初年次教育教科会議議長であった西垣順子（大学教育研究センター）が行った。

4.2. 結果の公表

2007年度の調査結果は初年次教育検討委員会に、2008年度の調査結果は初年次教育教科会議を通じて全学共通教育教務委員会に報告した。報告書の作成や、論文・報告としての公刊は行っていない。

4.3. 結果の概略

1回生セミナーと初年次セミナーの学習目標の4月時点と7月末現在での獲得状況を比較したところ、すべての項目で7月末での獲得状況が4月より高くなっていた。この中には「いろいろなことに対する問題意識」も含まれていた。また今後の学びへの抱負について、「所属する学部学科で学ぶ専門知識や技能」が選択された割合が75%であり、かつ「所属する学部学科の専門分野を超えた幅広い考え方や知識」も69%の学生が選択していた。これらのことから、1回生セミナーと初年次セミナーが学部横断型の初年次向け演習科目としての機能を果たしていると学生から認識されている様子がうかがえた。

1回生セミナーと初年次セミナーへの期待や受講動機は、レポートの書き方などのスキルに関するものが中心で、「問題意識を高める」といった比較的抽象的ではあるが総合大学への導入としては重要な事柄への意識は高くなかった。しかしこのような状況は7月末には改善され、学生の問題意識や学習動機はより幅広いものになっていた。新入生の学習意欲、特にスキル獲得のように目に見える成果とは異なる学習意欲

は、新入生から自然にわきあがってくるのを待つのでは不十分であり、大学側が開拓する必要があることが示唆されたと言えよう。

5. 今後の課題

1回生セミナーと初年次セミナーに対する学生の評価を総合的に考えると、これらの授業科目に対する学生からの評価は高いと言える¹⁾。

その一方で、全学共通教育における少人数演習科目としての初年次セミナーのあり方を考えるための調査としては、調査のあり方そのものをどうするかが、現在のところ実は深刻な問題である。なぜなら、すでに受講生からは高い評価が得られることが確認されている以上、同じ調査を今後も継続することにどの程度の意味があるのかが疑問だからである。確かに、初年次セミナーの質が低下したり学生の現状と乖離したりしていないことを確認するために、一定の年数を隔てた定期的な調査は必要なかもしれない。または毎年実施するとしても、自由記述を中心とする簡略したものに切り替えるという選択肢もありうる。選択肢中心のアンケートよりも、学生も思ったことを書きやすく、教員もまたより有意義な情報を得られやすいと考えられるためである。

しかし実際のところ、今後どのような調査を行うかは、「これから何をを知る必要があるのか」によって決まるものなのである。初年次セミナーの授業方法の改善のために何をすべきかを知りたいのであれば、これまでと同様に受講生を対象とする調査を実施するのが良いだろう。しかし実際には、初年次セミナーの学生からの評判は高く、少なくともその意味において、初年次セミナーの授業方法を大きく改善しなければならない必要性は大きくないと言える。むしろ現在のところ必要なのは、大阪市立大学の学生にとって、どのような初年次教育がどの程度の規模で求められるの

か、現状はニーズをどの程度満たしているのかということであろう。その際に、学部で実施される専門教育と全学共通教育として実施される授業を合わせて、大阪市立大学の学士課程としてどのような初年次教育が必要なのかという視点が重要になる。

この点を考える上で、本稿でレビューしてきた調査からの示唆の中で参考にできる点が1つある。それは、入学直後の学生の学習意欲が少なくとも学生自身の自覚としては、レポートを書くスキルのような目に見える具体的なスキルに偏りがちであるのに対して、授業に参加する経験を通じて彼らの学習意欲が、より広いものへと変化していくということである。初年次セミナーがその役割を果たすことに一定程度成功しているとしても、初年次セミナーだけがそのような効果をもたらしているわけではないだろう。大阪市立大学の学生のうちどの程度の数の学生が、そのような学習意欲の深化を経験するのか、またそれはどのようなきっかけによるのか、初年次セミナーの受講経験の有無を問わず、広く学生の一般的動向を把握する必要があるだろう。そして、学生の学習意欲の深化に不十分さが認められる場合には、それをどうやって改善するか、全学共通教育と専門教育のどちらで対応するのが良いのか、初年次に対応するのが良いのかも含めて、検討する必要があるだろう。

注

- 1) 本稿で報告した諸調査は受講終了時点でのものだが、授業を担当した教員がインフォーマルに行った聞き取り調査などでは、卒業を控えた学生でも1回生セミナーの受講経験を高く評価していることが報告されている。また2008年4月に学生に配布した1回生セミナーのレポート集に、1回生セミナーの感想を寄せてくれた受講生（2回生から4回生）のコメントを見ても、1回生セミナーの受講経験が彼らから高く評価されていることが伺える。

資料1 2006年度 1回生セミナー授業アンケート

このアンケートは1回生セミナーを履修したみなさんが、ほぼ履修を終えた現時点で、この科目についてどのように受け止めておられるのかを知り、この科目の今後のあり方を検討するための参考資料を得る目的で実施するものです。ご協力をお願いします。なお、みなさんの回答は統計的に処理され、ここに書かれた目的以外に使われることはありません。

1回生セミナー担当学会議（代表：大学教育研究センター・矢野裕俊）

Q1 あなたの所属学部は次のうちどれですか。あてはまるもの一つに をつけてください。

1. 商学部 2. 経済学部 3. 法学部 4. 文学部 5. 理学部 6. 工学部 7. 医学部 8. 生活科学部

Q2 あなたがこの科目を履修しようと考えた主な動機は次のうちどれですか。あてはまるものを一つだけ選んで をつけてください。

1. シラバスを読んで内容に興味をもった
 2. 1回生向けの科目だから履修すべきだと思った
 3. 先輩・友人に勧められた
 4. 少人数で学ぶセミナー形式の授業を受けたかった
 5. この時間帯にほかにとりたい科目がなかった
 6. その他（具体的に)

Q3 あなたがこの科目を履修するにあたって期待したことは何ですか。あてはまるものをいくつでも選んで をつけてください。

1. 大学での勉強の仕方を身につける
 2. よいレポートや文章の書き方を身につける
 3. 資料や文献の調査法を知る
 4. 文献の読み方・まとめ方を知る
 5. ディスカッションの仕方を知る
 6. 発表の仕方を知る
 7. いろいろなことに問題意識を高める
 8. 友人をつくる
 9. 先生と親しく接する
 10. その他（具体的に)

Q4 この科目を履修して学べた（できた）と思うことは次のうちのどれですか。あてはまるものをいくつでも選んで をつけてください。

1. 大学での勉強の仕方
 2. よいレポートや文章の書き方
 3. 資料や文献の探し方
 4. 文献の読み方・まとめ方
 5. ディスカッションの仕方
 6. 発表の仕方
 7. いろいろなことに興味をもつ
 8. 友人をつくる
 9. 先生と親しく接する
 10. その他（具体的に)

- Q 5 この科目を履修してもっともよかったことは何ですか。あてはまるものを一つだけ選んで をつけてください。
1. 大学での勉強の仕方がわかった
 2. 良いレポートや文章の書き方がわかった
 3. 資料や文献の探し方がわかった
 4. 文献の読み方・まとめ方がわかった
 5. ディスカッションの仕方がわかった
 6. 発表の仕方がわかった
 7. いろいろなことに問題意識をもてるようになった
 8. 学部を超えて友人ができた
 9. 先生と親しく話せた
 10. その他（具体的に)
- Q 6 この科目を履修した後、もっと学びたいと思ったことがありますか。あればそれは次のうちのどれですか。あてはまるものを一つだけ選んで をつけてください。
1. 大学での勉強の仕方を学ぶ
 2. よいレポートや文章の書き方を学ぶ
 3. 資料や文献の探し方を学ぶ
 4. 文献の読み方・まとめ方を学ぶ
 5. ディスカッションの仕方を学ぶ
 6. 発表の仕方を学ぶ
 7. ろいろなことに對して問題意識を広げる
 8. その他（具体的に)
 9. とくにない
- Q 7 1回生セミナーは現在、1年次前期に提供されていますが、履修時期・期間についてあなたはどのように考えますか。あてはまるものを一つだけ選んで をつけてください。
1. 入学直後に集中的に履修するのがよい
 2. 前期に履修するのがよい
 3. 後期に履修するのがよい
 4. 前期・後期どちらに履修してもよい
 5. 前期・後期を通して通年で履修するのがよい
- Q 8 1回生セミナーを履修していない友人が履修の是非を相談したとすれば、あなたはどのように言いますか。あてはまるものを一つだけ選んで をつけてください。
1. ぜひとも受けた方がよい
 2. できれば受けた方がよい
 3. どちらとも言えない
 4. とくに受けなくてもよい
 5. まったく受けなくてもよい
- Q 9 この授業で学んだことは、これから大学で学ぶうえで役に立つと思いますか。あてはまるものを一つだけ選んで をつけてください。
1. 大いに役に立つ
 2. ある程度役に立つ
 3. わからない
 4. あまり役に立たない
 5. まったく役に立たない
- Q 10 この授業で改善すべき点があれば、具体的にあげてください。
- Q 11 1回生セミナーでぜひ採り入れてほしいと思う内容がありますか。あれば、それはどんなことですか。具体的に書いてください。
- Q 12 1回生セミナー以外に1回生向けにどんな授業科目があればよいと思いますか。具体的に書いてください。

ご協力ありがとうございました。

資料2 2008年度 初年次セミナー授業アンケート

このアンケートは初年次セミナーを履修したみなさんが、ほぼ履修を終えた現時点で、この科目についてどのように受け止めておられるのかを知り、この科目の今後のあり方を検討するための参考資料を得る目的で実施するものです。ご協力をお願いします。なお、みなさんの回答は統計的に処理され、ここに書かれた目的以外に使われることはありません。

初年次教育教科会議

Q1 あなたの所属学部は次のうちどれですか。あてはまるもの1つに をつけてください。

1. 商学部 2. 経済学部 3. 法学部 4. 文学部 5. 理学部 6. 工学部 7. 医学部 8. 生活科学部

Q2 あなたがこの科目を履修しようと考えた主な動機は次のうちどれですか。あてはまるものを1つだけ選んで をつけてください。

1. シラバスを読んで内容に興味をもった
 2. 1回生向けの科目だから履修すべきだと思った
 3. 先輩・友人に勧められた
 4. 少人数で学ぶセミナー形式の授業を受けたかった
 5. この時間帯にほかにとりたい科目がなかった
 6. なんとなく
 7. その他(具体的に)

Q3 あなたがこの科目を履修するにあたって、次の事柄をどの程度期待していましたか。当てはまる数字を1つずつ選んで をつけてください。

	全く期待して いなかった	あまり期待して いなかった	期待していた	大いに 期待していた
大学での勉強の仕方を身につける	1	2	3	4
よいレポートや文章の書き方を身につける	1	2	3	4
資料や文献の調査法を知る	1	2	3	4
文献の読み方・まとめ方を知る	1	2	3	4
ディスカッションの仕方を知る	1	2	3	4
発表の仕方を知る	1	2	3	4
いろいろなことに問題意識を高める	1	2	3	4
所属学部以外の学部の友人をつくる	1	2	3	4
先生と親しく接する	1	2	3	4

Q4 次の事柄について、この授業を履修する前(4月上旬)と現在のそれぞれにおいて、あなたはどの程度身につけていましたか(身につけていますか)。当てはまる数字を1つずつ選んで をつけてください。

	全く身につけて いなかった(いない)	あまり身につけて いなかった(いない)	身につけていた (いる)	しっかりと身に つけていた(いる)
大学での勉強の仕方	1	2	3	4
4月上旬	1	2	3	4
現在	1	2	3	4
よいレポートや文章 の書き方	1	2	3	4
4月上旬	1	2	3	4
現在	1	2	3	4
資料や文献の調査法	1	2	3	4
4月上旬	1	2	3	4
現在	1	2	3	4
文献の読み方・ まとめ方	1	2	3	4
4月上旬	1	2	3	4
現在	1	2	3	4
ディスカッションの 仕方	1	2	3	4
4月上旬	1	2	3	4
現在	1	2	3	4
発表の仕方	1	2	3	4
4月上旬	1	2	3	4
現在	1	2	3	4
いろいろなことに 対する問題意識	1	2	3	4
4月上旬	1	2	3	4
現在	1	2	3	4

Q 5 この授業を通じて、次の事柄は4月の期待と比べてどの程度実現しましたか。当てはまる数値に1つずつをつけてください。

A. 所属学部以外の学部の友人を作る

1. 期待通りだった 2. まずまず期待通りだった 3. どちらともいえない
4. 期待はずれだった 5. 全く期待はずれだった

B. 先生と親しく接する

1. 期待通りだった 2. まずまず期待通りだった 3. どちらともいえない
4. 期待はずれだった 5. 全く期待はずれだった

Q 6 この科目を履修した後、これから先の大学生生活において、積極的に学び、身につけていきたいと思っていることは何ですか。次のうち当てはまるものすべてにをつけてください。

1. 所属する学部・学科で学ぶ専門知識や技能
2. 所属する学部・学科の専門分野を超えた幅広い考え方や知識
3. 自分とは異なる考え方や専門分野をもつ人々とコミュニケーションする力
4. 物事を分析的、批判的に考える力
5. 市民性や倫理的責任感
6. 現代社会の様々な問題について、自分で考え挑戦していく力
7. 広い視野から、自分自身の人生設計やキャリアデザインを考えること
8. その他（具体的に： _____)

Q 7 初年次セミナーは現在、1年次前期に提供されていますが、履修時期・期間についてあなたはどのように考えますか。あてはまるものを1つだけ選んでをつけてください。

1. 入学直後に集中的に履修するのがよい 2. 前期に履修するのがよい 3. 後期に履修するのがよい
4. 前期・後期どちらに履修してもよい 5. 前期・後期を通して通年で履修するのがよい

Q 8 初年次セミナーを履修していない友人が履修の是非を相談したとすれば、あなたはどのように言いますか。あてはまるものを1つだけ選んでをつけてください。

1. ぜひとも受けた方がよい 2. できれば受けた方がよい 3. どちらとも言えない
4. とくに受けなくてもよい 5. まったく受けなくてもよい

Q 9 この授業で学んだことは、これから大学で学ぶうえで役に立つと思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでをつけてください。

1. 大いに役に立つ 2. ある程度役に立つ 3. わからない
4. あまり役に立たない 5. まったく役に立たない

Q10 この授業で改善すべき点があれば、具体的にあげてください。

Q11 初年次セミナーでぜひ採り入れてほしいと思う内容がありますか。あれば、それはどんなことですか。具体的に書いてください。

Q12 初年次セミナー以外の授業等も含めて大阪市立大学の教育全般について、1回生のためのどのような教育上の工夫や配慮等があるとよいと思いますか。具体的に書いてください。

ご協力ありがとうございました。